

第六次竜王町総合計画 基本構想 骨子案 《パブリックコメント案》

令和3年(2021 年)
竜王町

《目 次》

第1章 まちづくりの考え方（基本理念）	2
第2章 めざすべき 2030 年の竜王町の姿	3
1. まちの将来像	3
2. 将来人口の見通し	5
3. 土地利用構想	7
(1) 土地利用の全体方針	7
(2) まちづくりの“核”	7
(3) まちづくりの“拠点”	8
(4) まちづくりの“軸”	9
第3章 まちづくりの3つの柱（案）	11
豊かさ 活力あふれるまちづくり	11
やさしさ 安心して暮らせるまちづくり	11
つながり みんなで進めるまちづくり	11

第1章 まちづくりの考え方（基本理念）

「基本理念」は、まちづくりを進める上で大切にしなければならない考え方であり、普遍的・長期的な視点で設定することが必要です。そのため、第五次竜王町総合計画で掲げた基本理念に、社会潮流の変化を踏まえた見直しを行い、以下の通り設定します。

（１）豊かな自然と歴史を誇れるまちづくり

美しい自然、田園風景や歴史・文化は、町民が愛着や誇りを持ち守ってきた大切な財産です。これらの魅力を次世代に引き継ぐため、町民が歴史や自然の魅力を理解することはもちろん、SDGs の考え方も含めた持続可能なまちづくりが必要です。

先人が守ってきた自然や風土、築いてきた暮らしや歴史に加え、新たな魅力を活かし、すべての町民がまちに誇りを持つことができるまちづくりをめざします。

（２）みんなが安全に安心して暮らせるまちづくり

人口減少、少子高齢化や地域・家庭のつながりの希薄化が進む中、大規模な自然災害の発生や新型コロナウイルス感染症感染拡大など、生活の中で不安を感じる要素は多岐にわたります。

福祉の充実や心とからだの健康づくり、防犯・防災対策、互いに思いやり、感謝しあえる町民同士のつながりづくりなどにより、子どもから高齢者まで誰もがのびのびと安心して健康に暮らすことができるまちづくりをめざします。

（３）地域特性を活かすまちづくり

Society5.0 が示す AI や 5G、自動運転、デジタル化などが普及したスマート社会では、私たちの暮らしはより豊かで快適なものになると考えられ、製造業が盛んな竜王町では、産業分野、生活分野、行政分野それぞれでの活用が期待されます。

働き方やつながり方の多様化が求められる時代の中で、自然や歴史・文化、農商工観光の魅力が揃った地域特性の強みを活かし、多様な暮らし方、学び方、働き方ができるまちづくりをめざします。

（４）協働によるまちづくり

まちづくりを進めるには、様々な場面での町民や団体、企業の参画・協働が欠かせません。人口減少の中でも、これまで培ってきた地域コミュニティを引き続き維持するとともに、誰もがやりがいを持って参画できる新たなコミュニティも求められています。

お互いに顔が見えるまちの規模を活かし、企業をはじめそれぞれの主体が得意分野で高め合うことができる関係を創っていくことが必要であり、行政とともにまちの未来を見据え、企画段階から関わり、実行する竜王町らしいまちづくりをめざします。

第2章 めざすべき2030年の竜王町の姿

1. まちの将来像

将来像とは、町民（住民、地域、企業、団体など）と行政がともにまちづくりを進めていくうえで、共有できる到達点のイメージを示したものです。まちの個性や将来のあるべき姿、まちづくりの指針としての意味が込められています。

長期的な視点でまちづくりを進めていくためには、この将来像に基づき、まちづくりに携わるすべての人が同じ目標に向かってそれぞれの取組を推進することが重要となります。

第五次竜王町総合計画では、「ひと」に着目することで、人口減少の抑制を図る取組を進めてきましたが、人口減少には歯止めがかかっていません。本町における人口減少は若い世代が中心となっており、そのことが出生数の減少にもつながり、継続的な人口減少の要因となっています。

そこで、若い世代を中心に、希望（夢や前向きな気持ち）を続ける人＝「若者」に焦点を当て、希望を実現することができるまちであることをめざし、2030年の竜王町の姿を『若者も暮らしたい 希望かなえる 麗しの郷 ～ 心弾む 新時代へのチャレンジ 竜王 ～』として、その実現に向けたまちづくりを推進します。

《将来像案（10年後のあるべき姿）》

わかもの く 若者も暮らしたい きぼう 希望かなえる うるわ さと 麗しの郷
～ ころはす 心弾む しんじだい 新時代へのチャレンジ りゅうおう 竜王 ～

若者（も）：若者をはじめ、前向きな思いを持ち続ける竜王町に関わる全ての人（若者、女性、子ども、働き世代、高齢者なども含む）

暮らしたい：仕事や子育て、趣味活動など日々の暮らしを通して地域に愛着を持ち、人との関わりを育み、それぞれが活躍しながら、将来も継続して住み続けたいと思えること

希望：出産、子育て、学び、仕事、結婚、健康、長寿など、それぞれが思い描く幸せ

かなえる：思い描く希望を人にかなえてもらうだけでなく、自身の努力やお互いの支え合い、まち全体のしくみづくりにより、みんなの希望を実現すること

麗しい（うるわしい）：町民憲章にも謳われている「このうるわしい郷土」を将来の姿とする（うるわしいの意味）

精神的に豊かで気高く、人に感銘を与える。心あたたまり、うつくしい。目に快く映る。

晴れ晴れしている。乱れたところがなく、整っている。人と人との間柄が良好。

郷：私たちが希望をかなえるための舞台

将来像を実現するために

～ 心弾む 新時代へのチャレンジ 竜王 ～

わたしたちの暮らす竜王では、大規模な自然災害の発生への対応や安心して年を重ねることが出来る地域づくりなど、これからも着実に取り組まなければならないことがあります。一方、新時代（With コロナ、Society5.0、令和など）では、まちの潜在的な可能性を具体的に形づくることや先端技術の利活用により、豊かで利便性の高いまちづくりにチャレンジしていくことが大切です。

これからのまちづくりを進めるにあたっては、人口減少が進行する中で困難も予想されますが、まちに関わる町民や地域、企業、行政など、すべての主体がやりがいや楽しみを持ち、役割を認識しながら集まり、「オール竜王」でめざすべき10年後のまちの将来像を実現します。

2. 将来人口の見通し

(1) 将来目標人口

《目標案》

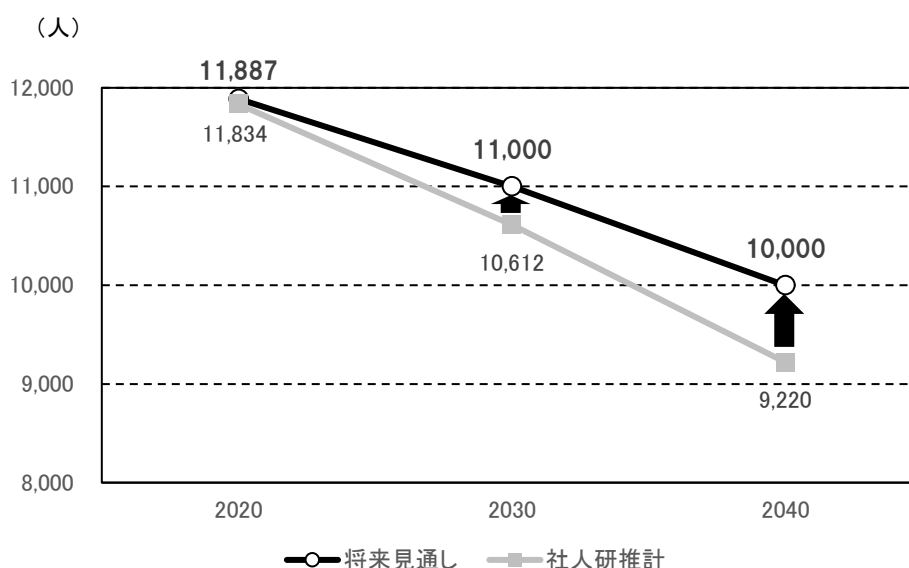
- ①2030 年：11,000 人（2040 年以降 10,000 人を維持）
- ②2030 年：生産年齢人口比率 56%

第五次竜王町総合計画に基づき、企業誘致や集合住宅の整備などに取り組んできましたが、人口減少に歯止めがかかっていません。一方、町内企業で働く町外在住の人や、アウトレットモールへの来訪者などの昼間人口の多さは竜王町の強みとして定着しており、平成 27 年（2015 年）国勢調査によると、本町の昼夜間人口比率は 138.8%で、滋賀県内 1 位、全国市区町村でも 42 位と昼間に多くの人が働いている、活動しているまちとなっています。

定住人口の減少が避けられない状況の中で、できるかぎり減少を緩やかにしていくとともに、関係人口・交流人口の増加を図ることで、雇用やにぎわいなどまちの活力を維持していくことが必要です。

本計画では出生数の維持や若い世代を留めるとともに新たに呼び込むことで、令和 22 年（2040 年）以降も 10,000 人以上を維持することを長期的な目標として見据え、令和 12 年（2030 年）のめざすべき将来人口を 11,000 人とします。

■総人口の見通し



※社人研推計は、国立社会保障・人口問題研究所による推計

※将来見通しは、各種まちづくりの取組により、転入・転出による社会動態、出生などによる自然動態の改善を図った際の見通し

(2) 人口減少抑制の見通し

総人口の見通しを実現するためには、転入・転出による社会動態、出生・死亡による自然動態の減少幅を縮小する必要があります。

本町では進学、就職を契機とした若い世代の流出による転出超過がみられますが、年度によっては大手企業寮入寮者の移動により転入超過となる場合があります。そのため、企業寮入寮者の影響を除外した社会動態改善の見込を行った後、毎年企業寮入寮者分を一定数上乗せることで人口見通しを行っています。社会動態の改善に向けては、若い世代にとって魅力的な仕事の創出、暮らしの環境づくりを行い、出身者のＵターンや都市部からの移住を促進することで減少数を抑制します。

また、結婚支援や子育て環境の向上による減少傾向にある出生数の維持・改善、健康寿命の延伸による死亡数の増加抑制により、自然動態の改善を図ります。

■社会動態・自然動態の見通し（年間の減少数）

	現状値（R2）	社人研推計（R12）	目標人口（R12）	備考
社会動態	-75 人	-72 人	-53 人	
自然動態	-50 人	-69 人	-43 人	出生数 72 人程度を維持
総人口	2020 年 11,887 人	2030 年 10,612 人	2030 年 11,000 人	

※社会動態・自然動態は5年間の変化数を平均した年間の数値

※上記社会動態は、大手企業寮入寮者分を除く。人口推計には 470 人程度（R2実績）で固定して見込んでいる

上記の社会動態・自然動態の改善を図るためには、若い世代の転入の受け皿となる住宅が必要です。竜王町コンパクトシティ化構想に基づく竜王小学校跡地（予定）や、鏡北部地域における戸建て住宅の整備や空き家の利活用などにより、新たな受け皿を確保します。

■新たな受け皿の見通し

		戸数	人数
新規住宅開発	竜王小学校跡地他	150 戸	450 人
	鏡北部地域	150 戸	450 人
既存資源の活用		町有地・空き家や集落周辺における地区計画の活用	

3. 土地利用構想

竜王町コンパクトシティ化構想を見据えつつ、竜王町グランドデザイン構想における 30 年後のまちの理想の姿を念頭に置きつつ、まちづくりの基盤となる土地利用の全体方針として“核”“拠点”“軸”を設定し、将来目標人口やめざす姿を達成できる計画的なまちづくりを進めます。

(1) 土地利用の全体方針

町民の生活を支える基盤として、安心・安全を確保することを重視しつつ、下記の方針に基づき、土地利用を推進します。

① 中心核と各拠点へのバランスの良い機能配置

中心核のみに集中するのではなく、各生活拠点（集落・住宅団地）や両道の駅を中心とした観光・交流拠点、産業拠点も含めてバランスのとれた都市機能の充実を図り、町全体の生活利便性の向上やにぎわい、活力を感じられるまちづくりを図ります。

② 町内外の拠点をつなぐ道路軸の強化

町内の中心核、各生活拠点や観光・交流拠点、産業拠点、町外の駅や通勤・通学先との結節について、安全で機能的な道路整備や地域の実情に応じた公共交通の確保等により、町内外アクセスの強化を図ります。

③ 農商工、住などの地域特性を活かす土地利用

農業、商業、工業などの多様な産業、恵まれた自然や田園環境、特徴ある歴史・文化の中で育まれてきた住まいの地としての魅力等の地域特性を守り、活かすことでまちの魅力を高める土地利用を進めます。

(2) まちづくりの“核”

利便性が高く、誰もが安心して利用でき、多様な交流を育む竜王町コンパクトシティ化構想に基づく中心核を形成するとともに、各生活拠点とをネットワークでつなぐことで、町全体のバランスのよい発展をめざします。

① 交流・文教ゾーン

図書館、公民館等に加え、新たな小学校や幼稚園（こども園）など教育関連機能の集約や学童保育、コミュニティセンター、公園などの整備により、子育て環境の充実と多様な交流機会の創出を図ります。

② 居住ゾーン

小学校、幼稚園跡地他を活用し、戸建住宅や集合住宅など、時代に即した魅力的で多様な住宅の提供を図ります。

③ 複合ゾーン

民間活力を誘導し、飲食店やカフェ、特産物販売所や民間医療機関など、利便性が高く、魅力的でにぎわいが生まれる場づくりを進めます。

④ 商業ゾーン

スーパーや民間医療機関など、生活の利便性高める機能を集約したゾーンとして維持します。

⑤ 行政ゾーン

役場庁舎周辺公共施設での手続きや相談のワンストップ化やオンライン・デジタル化に対応した、便利で質の高い行政サービスを提供します。

(3) まちづくりの“拠点”

恵まれた自然環境や歴史・文化資産やまちの活力を次世代へと引き継いでいくため、計画的かつ重点的に魅力ある拠点づくりを進めます。

① 集落および住宅団地などの生活拠点

既存集落において、空き家・空き地の利活用や地区計画を活用した新家建設を促進し、主に町内居住者や出身者のＵターンを中心に定住人口の増加を図るとともに、既存住宅団地では、空き区画への入居促進を図るなど、若い世代の定住人口の増加を図ります。

また、自治会機能を維持し、若者や女性、高齢者などの多様な参画により、将来にわたって安心して暮らし続けられる地域づくりを図ります。

② 広域商業拠点（名神竜王インターチェンジ周辺）

名神竜王インターチェンジ周辺は、アクセスの良さやアウトレットモールの集客力を活かし、商業施設などのさらなる充実を促進するなど、まちの玄関口としてにぎわいが感じられるエリアづくりを図ります。

③ 観光・交流拠点

既存の観光・レクリエーション機能に加え、両道の駅や周辺地域における機能の拡充により、竜王ブランドの強化と魅力の情報発信拠点とするとともに、滞在型観光や複合的な機能の導入を進めます。

妹背の里の活用など、史跡等を活かした拠点機能の充実や自然体験型レクリエーションの拠点としての機能強化を図ります。

また、AI・ICT技術を活かしたスマート農業や地域特性に応じた農業の展開を図り、農業の魅力向上と観光との連携を推進します。

⑤ 産業拠点

町域南部に立地する自動車産業の工場用地や滋賀竜王工業団地、名神竜王インターチェンジ周辺などにおける新たな工場や研究開発部門を伴った企業の誘致などにより本町のものづくり産業の振興を図ります。

(4) まちづくりの“軸”

まちづくりの“核”“拠点”を効果的かつ重層的にネットワーク化する骨格となる軸を形成し、まち全体の魅力と活力の向上をめざします。

① 国土幹線軸

名神高速道路は、全国に繋がる国土軸として、その機能を活用します。

国道8号は、周辺市町を含む国土レベルの幹線軸として、その機能強化に向けた促進活動を実施します。

② 広域連携軸

隣接する市と繋がる国道・県道を基本として広域連携軸を設定し、その軸を活用した広域的な機能を発揮する土地利用を図ります。

また、周辺市町と連携し、名神竜王インターチェンジ周辺の整備と連動し、広域ネットワーク構想路線の整備に向けた促進活動を実施します。

③ 拠点連携軸

町内の拠点間を結ぶ道路ネットワークを構築し、スムーズな町内移動を図るとともに、通勤や物流車両などの集落内通過の抑制と産業の活性化に向け、幹線道路のバイパス化について検討を進めます。

④ 一般軸

広域幹線軸や拠点連携軸を補完する機能や町民生活面で必要な機能の維持を図ります。歩行者や自転車などの通行の安全を確保するため、道路機能の充実を図ります。

■将来都市構造図



第3章 まちづくりの3つの柱（案）

第六次竜王町総合計画では、まちの将来像「若者も暮らしたい 希望かなえる 麗しの郷 ～ 心弾む 新時代へのチャレンジ 竜王 ～」の実現をめざし、「豊かさ」「やさしさ」「つながり」の3つの柱に基づき、まちづくりを進めていきます。

豊かさ 活力あふれるまちづくり

竜王町の立地や産業構造などの特徴を活かしてまちをより便利に、そして活性化することで魅力を発信していく取組に関する柱で、滋賀竜王工業団地や名神竜王インターチェンジ周辺地域を中心としたさらなる企業誘致による雇用の創出や魅力ある農業、にぎわいの創出、若者の移住・定住の促進、利便性の高い生活環境づくりなどの拠点整備、道路や地域交通の充実を図りつつ、まちの魅力を高め、幅広く情報発信するなど、発展・進化を生み出す「攻め」のまちづくりによる活力の創造をめざします。

やさしさ 安心して暮らせるまちづくり

快適かつ安全な環境の中で、生涯にわたって健やかに安心して暮らせるまちを創出していく取組に関する柱で、子育て支援の充実や特色ある教育、健康寿命の延伸、互いに支え合うことができる地域共生社会の構築、水害等の災害に強い防災力の向上など、次世代に引き継げる「守り」のまちづくりによる安心の創造をめざします。

つながり みんなで進めるまちづくり

まちづくりを効果的に進めるための仕組みづくりに関する柱で、町民との協働の促進や地域コミュニティの維持・活性化を図るとともに、様々な分野における先端技術の利活用や効果的な行政経営の推進など、新たな時代に対応したしくみづくりを行います。